

岐阜県人によるブラジル移民七十周年を記念して

レジストロ市を訪問

昨年七月二十九日から八月八日までの十一日間、岐阜県人によるブラジル移民七十周年を記念して、上松岐阜県知事を団長とするブラジル親善訪問が行われました。当市からは後藤収入役以下四名がこの一員として、姉妹都市レジストロを訪れ友好と親善を深めました。以下訪問団各位から報告が寄せられましたのでお知らせします。

大役を果たし充実感

中津川市収入役 後藤 忠治

「岐阜県人七十周年の譜、一九一三年、若狭丸で第上松知事が激励と称賛、母二回東洋移民として七十周年から大型使節団を迎え祭前に移住したことを記念し典」。一九八三年八月二日付サンパウロ新聞（日本語版）社会面上段の四分の一近い紙面に、七月三十一日のサンパウロ市内日本文化協会での式典の様子が写真入りで載った。

「地球の向こう側、十二時間の時差がある未知の地で親善訪問の目的をもつての渡伯であった。低く土地のため排水に時間がかかり、交通止めや床上浸水が四十日間も続いたことなどの説明を聞く。」

この水害は、渡伯前に中津川市へ連絡があり、市と友好協会が五百ドルの見舞金を持参。また小池市長のメッセージの中にもこの表現がなされておりました。学校の見学、農業経営の実態、ことに十日〜十二日ごとに刈り取る六百五十ヘクタールの茶園からの製茶業の実態、先駆者慰霊祭参加、歓迎祝賀会、晩さん会などを通じて、カルバリーヨ市長、レジストロ市議会長谷川議長、隅田日本人会



レジストロ市での歓迎式典の席上 小池中津川市長のメッセージを朗読する後藤収入役、中央は酒井県議、右側は長谷川レジストロ市議会議員

「この水害は、渡伯前に中津川市へ連絡があり、市と友好協会が五百ドルの見舞金を持参。また小池市長のメッセージの中にもこの表現がなされておりました。学校の見学、農業経営の実態、ことに十日〜十二日ごとに刈り取る六百五十ヘクタールの茶園からの製茶業の実態、先駆者慰霊祭参加、歓迎祝賀会、晩さん会などを通じて、カルバリーヨ市長、レジストロ市議会長谷川議長、隅田日本人会

中津川学級の定礎式に出席

中津川市議会議員 青山 道治

レジストロ市の行事で定礎式というのに参加した。立て看板にポルトガル語で特殊教育中津川学校建設と書いてあると訳された。三年前からの市民の念願であったという説明。障害児施設の建設のためのものであるが、この日、日系の数千人の方と、中津川市関係者で市役所裏側に当たる道路に面した女子高学年学校らしい隣の建設地へ行った。ここには一部重機が据えてあり多少道路に面した部分は整地が始められていて工事の数人もいた。間口は二十メートル近くで、奥に長い敷地があり、中は雑草が生えている。

排水はまだ施してない。沼地のような部分もある。その一角にレンガで約五十センチ四方に積み、セメントで固定した定礎ボックスがある。こちらの定礎式は、日本の地鎮祭、起工式をかねたような行事にも思えた。集まった人たちは道路に雑然と見守る。市長はもちろん議長も、議員七人も列席していた。

また、青い上衣と帽子に白ズボンでそろえた楽団員二十人近くが、マイクを手にして到着。三列縦隊に道路の真中に並んだ。副議長の司会で式が始まった。ブラジルの演説の長



レジストロ市の中津川公園にて

長をはじめ、多くの人達の心温まるもてなしを受け、感謝の気持ち一杯です。今後ますます親善を深めたい。在伯中、お世話下合ひ、姉妹都市のキズナを永く続けて行くことが、世界の皆さんに心から謝意を界平和のため、ささやかな

苦勞のにじみ出た手

中津川市議会議員 鳴海 均

「岐阜県を訪れた」といわずに人ブラジルたことでもご理解いただけ移住七十周年のことと思いたい。年記念式典「岐阜県人ブラジル移住七十年記念式典」でのブラジルの親善を深めるためにブラジルを訪れる機会を好親善とともに、世界平和に役立つと考えるからだ。話の途中で何度となく大成功だった。訪伯された上松知事をしめて「岐阜県人ブラジル移住七十五周年にもぜひブラジ

昭和五十九年度会員募集について

中津川市姉妹都市友好推進協会では、ただいま会員を募集しています。

個人 一口 壹千円
法人 一口 壹万円
団体 一口 五千元

この協会の活動を盛り上げ、レジストロ市民との交流の拡大を図るため、一人でも多くの皆さんが御加入です。下さるよう御理解と御協力をお願い申し上げます。

秘書課及び各支所と、市内各金融機関の窓口にて備えてあります。

なお、本会について判らないことがありましたら何でもお気軽にお問い合わせ下さい。

事務局
中津川市役所秘書課内
TEL 六一一一一
内線 三三三
まで



中津川学校の定礎式で四角の定礎ボックスのふたを塗る青山市議

立派な教育者に感動

中津川市教育委員 鈴木嘉進

このたびの訪伯でどうも見学したかったのが「学校」でした。それは姉妹都市締結の継続、交換学生問題、あるいは国際人の育成など将来を展望して、理解しておきたかったからです。

ブラジル国の教育は小学校八年制(義務教育) 中学三年制、大学四年一六年制とのことでした。義務教育の就学率は約八〇%といわれていますが、実際はもっと低いようです。

かつての文盲率(四〇%強)を克服しようと国を挙げて懸命な努力が施されているのは事実です。が、貧困地域、広大な地域で人口の少ない地区などの就学率はさきわめて低いのも事実です。義務教育は公私立とも無料です。学校の規模は五十人〜百人くらいの生徒数のものが多く、それも午前、午後、夜間の三部制で、一日四時間授業です。

運動場を併せた学校はきわめて少なく、また先生と生徒の触れ合い教育はなく、形式的授業が多いのが一般的なようです。このように私たちの目から見れば問題点は山積されていて、解決が急がれることが多いのが現実です。

しかし、私たちが訪問した学校の一つに銀行が経営する私立ブラテスコ小学校があります。この学校は生徒数千人を超す三部制のレジストロ市内一番の近代的な学校でした。同市は日系の都市といわれるくらい、日本に対する関心は高く、この学校でも私たちは心のこもった歓迎を受けたのであります。

特に感動したのは女性校長先生のきわめて短いあいさつ「私たちがからの贈り物はなにもありません。しかし私たちは平和と愛をもって皆さんを歓迎します。」という言葉に接し、です。

今年、お茶とバナナの景気がよいので、町にも活気がでていきました。

来月三十日、町にやってくる姉妹都市友好推進協会が創立されることに決定しました。

今までは市長が職務におわれなかなか進展しなかったのが、偶田さんの努力で、段々と被害を大きくしている。



交換のため中津川市から持参した小学生の絵画を、現地ブラテスコ小学校の児童にプレゼントし記念写真に収めたところ

ブラジルから民芸品

落合中学校 里帰りのOB橋渡し

昨年十月落合中学校において、姉妹都市レジストロとサンパウロ両市のブラジルの小、中学生の作品と民芸品約二百点が届けられ、展示会が行われました。

橋渡ししたのは同校OBで、十三年ぶりに帰国したパウリスタ新聞社編集長兼社会部長の上田鉄三さん(五〇)。

上田さんは同市落合の出身でブラジルに渡って創刊間もないパウリスタ新聞に入社。

三年前に永年日伯文化交流と親善に尽したとの理由



落合中学校1階ロビーに展示された現地小中学生の作品

で、サンパウロ名誉市民賞を頼む一方、長さ四メートルが贈られることになったが、蝶の標本、人形、めわの細工品などの民芸品を集め、住の晋さんが受賞をしたことによる。

上田さんは昨年長野県で開かれた新聞週間の催しと海外日系協会の総会で訪日した。これを機会に中津川の少年たちにブラジルをもっと理解してもらおうと、地元の日本語学校連合会に生徒の作品やペンフレンドのあと市役所を訪ずれ帰国帰国

◎九月十九日(二十一日) レジストロ市の製茶業主川を訪ずれる。

亀山ジョージ夫妻と母親の三名が、母の生地北海道へ里帰りの折に姉妹都市中津川を訪ずれる。

レジストロ市民からのお便り紹介

一九八四年の新年を御健勝にてお迎えのことと存じます。

故国日本は、今年には非常に寒さが厳しいようですが、こちらサンパウロは近年にない暑さが続いています。毎日三十八度から四十度の暑さで、ニワトリが死んだり、大豆や野菜にも大きな被害が出ていますが、陽気な国民性かもうカンナバル気分には浮かれています。

今年、大統領の選挙で直接選挙が間接選挙から回って来ました。野党は直接選挙を要求して、民

レジストロ市始まって以来の大災害に見舞われる

レジストロ市 高橋晴美さんより

中津川公園の記念樹も大きくなり、今で

一方レジストロ市の松村さんは長野県出身の日系一世で、三年前カルバリーヨ前市長とともに当市を訪ずれ、高令にもかかわらず全

交流状況の紹介

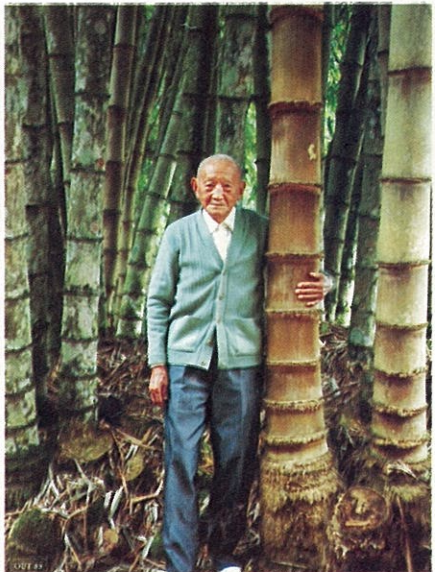
市民どうしによる身近な交流をと、一昨年から文通による交流が始まりました。

市内落合に在住の糸魚川力男(八十四才)さんもこの一人で、レジストロ市の松村栄治(八十八才)さんと度度にお手紙の交換を行いました。

◎五月七日 昭和五十八年度総会が中津川市防災センターで行われ、前年度事業と会計決算の承認及び本年度事業、予算の決定がなされた。

◎五月二十七日、二十八日 レジストロ市からニセア・ヒロタ・ダ・シルバー南各氏がレジストロ市を訪ずる。サンパウロ州教育総監夫妻、一層の友好親善に努める。

◎九月十一日(六日間) 級ポルトガル語講座を開設、中津公民館において上智大学ポルトガル語講師のアルリダ山口氏を迎え、初を終了した。



自己の所有する竹やぶで松村さんの元気な姿 日本では見られない程に大きな竹が群生している

昭和五十八年度の事業のあらまし

他一名が当市を訪ずれる。

◎九月十九日(二十一日) レジストロ市の製茶業主川を訪ずれる。



右から レジストロ文化放送局長 妻の南サンパウロ州教育総監ニセア氏 叔母さんと通訳の西本氏

お知らせ 姉妹都市推進事業について御意見御希望をお寄せ下さい。

事務局 中津川市役所秘書課内 TEL 六一一一一



ポルトガル語講座に取り組む受講生と講師のアルリダ山口さん